

スーダングラスの播種期別生育速度と乾物収量

馬場武志・敷田成太郎¹⁾・井上信明・梅田剛利 (福岡県農業総合試験場・¹⁾ 福岡県筑後農林事務所)Takeshi BABA, Seitaro SIKITA, Nobuaki INOUE and Taketoshi UMEDA:
Growth Speed and Dry matter yield of Sudangrass in Deffrent Seeding Time

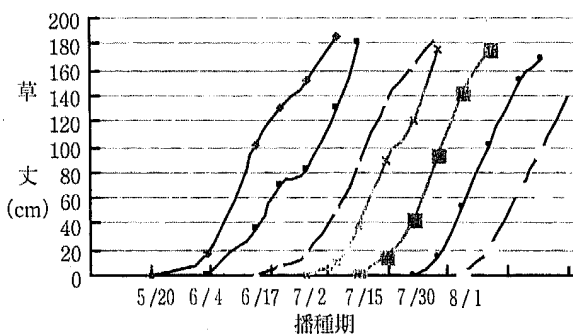
大家畜経営における省力的飼料生産・貯蔵技術としてロールベアラ・ベールラップ作業体系が普及してきたことに伴い、この作業体系に適した夏作飼料作物であるスーダングラスの栽培面積が増加している。スーダングラスは播種可能期間が広く栽培が容易な草種といわれているが、その播種期と生育、収量、刈取回数について明らかにした資料は少ない。そこで、スーダングラスをロールベールサイレージに適した草丈、約170cmで刈取った場合の播種期と生育および乾物収量、刈取回数等について調査した。

1. 材料および方法

ヘイスーダンを1999年5月20日から8月10日までの間に14日間隔で播種し、草丈、乾物収量、TDN含量等について調査を行った。栽培は試験規模3×3mの9m²3反復とし、播種量6kg/10a、50cm条間播種とした。肥料は基肥としてN、P₂O₅、K₂Oを各10kg/10a、6~7葉期および刈取り後追肥としてN、K₂Oを各7kg/10a施用した。刈取調査は、平均草丈170cmに達した日とし、最終刈取りは、気温の低下により草丈の生育がほとんどなくなった10月18日に行った。このため、最終刈取りでは170cmに達していない試験区もあった。

2. 結果および考察

第1図に播種期別の1番草草丈調査結果を示した。5月20日および6月17日播種の初期生育は外気温が低かったためやや悪かったが、後半は気温上昇により順調に生育した。草丈170cmまでの生育日数は6月17日までの播種で50日程度、7月2日以降の播種で40日程度であった。最も早く草丈170cmになったのは7月15日播種で36日であった。

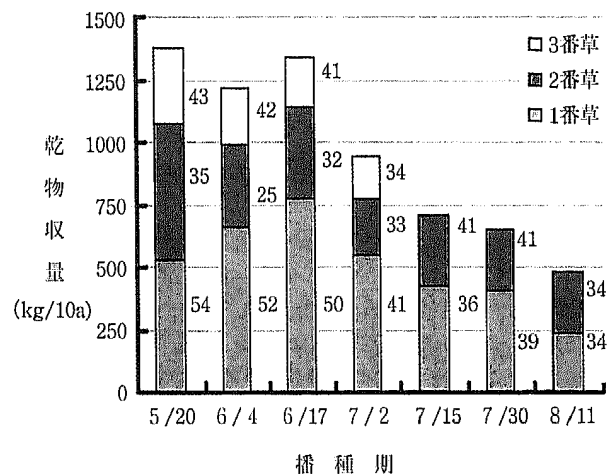


第1図 播種期別1番草の生育状況

第2図に各播種期の乾物収量を示した。1番草の乾物収量は6月17日が最大となり、2、3番草では5月20日が多くなった。合計乾物収量で最も多収となったのは5月20日播種1,377kg/10aで、次いで6月17日播種1,341kg/10aであった。刈取回数では、7月2日播種までは3番草の刈取りが可能であったが、7月15日以

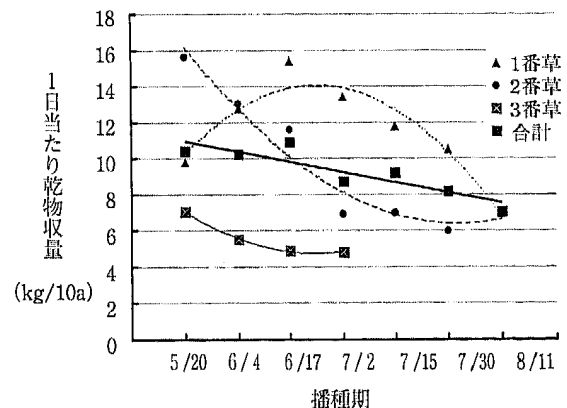
降の播種では2回刈り取りとなった。また、8月11日播種では乾物収量が低下し478kg/10aとなったものの十分収穫可能であった。なお、7月2日播種の3番草および7月30日以降の2番草は刈取時に170cmに達していなかった。170cm刈取時のTDN含有率は各播種期とも54~56%程度で播種期によるTDN含量の差は小さかった。このため合計TDN収量は乾物収量と同様に6月17日播種を除いて播種期が遅くなるほど低下する傾向にあった。

ほ場の利用効率を検討するため乾物収量を生育期間で除して1日当たりの乾物生産量を計算し第3図に示した。1番草では6月17日~7月2日が最大となり、2、3番草では播種期が遅くなるほど低下する傾向が見られた。この結果、1、2番草および3番草の合計乾物収量では5~6月播種が比較的高く、播種期が遅くなるほど低下する傾向がみられた。



第2図 播種期別乾物収量

注) 図内の数字は生育日数を示す



第3図 播種期と1日当たり乾物生産量